

都市再生整備計画 事後評価シート

加茂市街地地区第二期

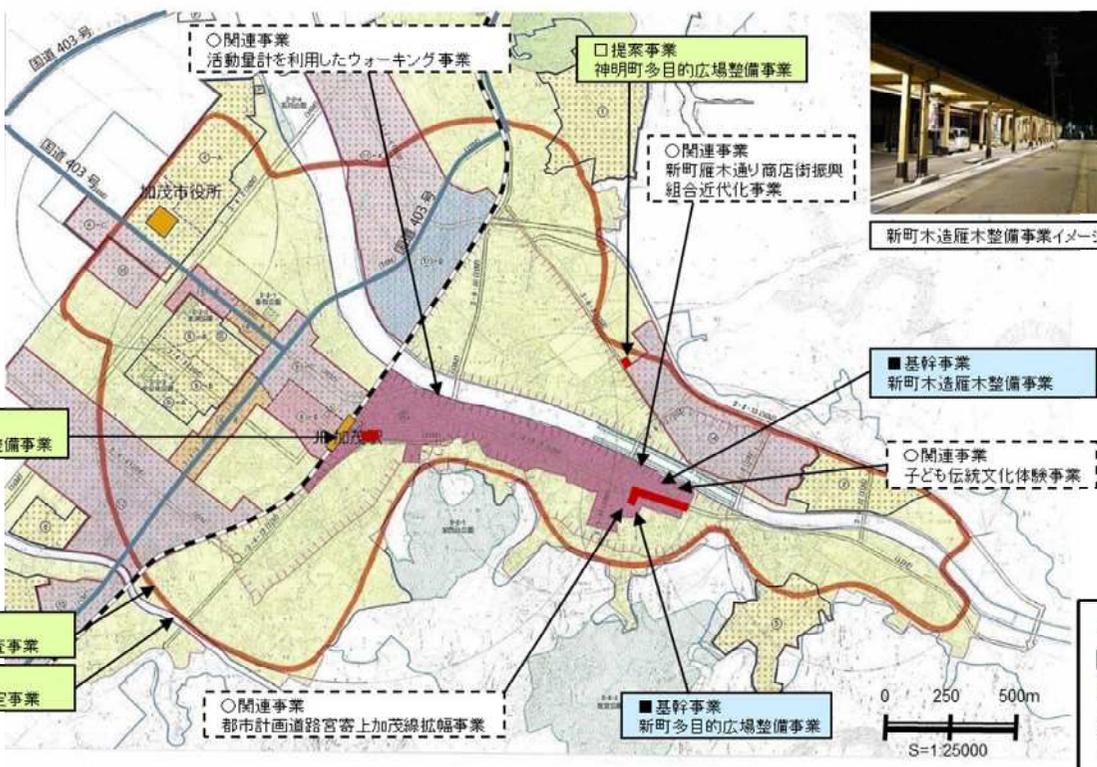
令和7年2月

新潟県加茂市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	新潟県	市町村名	加茂市	地区名	加茂市街地地区第二期(第3回変更)	面積	380ha					
交付期間	令和元年度～令和6年度	事後評価実施時期	令和6年度	交付対象事業費	356.0百万円	国費率	0.4					
1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名									
	基幹事業		新町多目的広場、新町木造雁木整備									
	提案事業		事業活用調査事業									
	当初計画から削除した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
	新たに追加した事業		事業名		削除/追加の理由		削除/追加による目標、指標、数値目標への影響					
交付期間の変更		当初	令和元年度～令和5年度	交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響		-						
変更		令和元年度～令和6年度										
2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		単位	従前値	目標値	数値	目標	1年以内の	効果発現要因	フォローアップ		
				基準年度	目標年度	モニタリング	評価値	達成度	達成見込み	(総合所見)	予定時期	
	指標1	新町木造雁木 歩行者数	人/日	348	平成30年 450	令和6年	-	367	△	あり	歩行者・自転車の総数は目標を下回ったが、従前の調査からは増加しており、歩行者の通行量に限定すると従前の調査から1.6倍に増えている。よって傾向は改善していることが確認できる。今後は、歩行者に対象を絞り込み目標値を再設定した上で計測することが望まれる。	-
	指標2	新町多目的広場イベント参加者数	人/回	0	平成30年 250	令和6年	-	256	○	あり	悪天候でイベントが中止となったため計測は未実施となったが、イベント予定期と同時期に開催されたイベント(加茂ナイトバザール@産業センター)の来場者数から推計し、目標値250人を上回ると判断できる。	令和8年4月
	指標3	避難困難者数	人	390	平成27年 0	令和6年	-	370	×	あり	神明町多目的広場が未整備のため、避難困難区域の解消には至らなかった。	※次期計画の成果指標として計測を実施予定
指標4	健康ウォーク参加者数	人/回	302	令和2年 500	令和6年	-	253	△	あり	参加者数は目標を下回ったが、過去5年の健康ウォークのうち、本町商店街を含むコースの平均参加者数は278人、それ以外のコースの平均参加者数は259人となり、コースとしての魅力を感じる人が多いと想定される。	-	
3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	その他の数値指標1		休日の新町木造雁木 歩行者数	人/日	-	-	-	412	-	-	平日に比べ、休日の新町木造雁木歩行者数が多いことから、日常の移動だけでなく散策・ウォーキングなどの余暇利用にも活用されていると推測される。「指標1:新町木造雁木歩行者数」の計測の際にも夜間のウォーキング利用がみられたことから余暇利用が定着していることが窺える。	-
	その他の数値指標2		新町のWi-Fiアクセスポイントにおける月平均アクセス数	人/月	-	-	-	4,907	-	-	新町のWi-Fiアクセスポイントの月平均アクセス数(ユニークユーザー数)は年々増加していることから、年々、外からの来訪者が増加していると推測される。	令和7年4月
	その他の数値指標3		加茂市健康ポイント事業のポイント端末(中央コミセン・メリア)の年間アクセス数	件/年	-	-	-	27,058	-	-	中央コミセン・メリアの健康ポイント端末への年間アクセス数は増加しており、その周辺地区である「加茂市街地地区」におけるウォーキング頻度が高まっていると推測される。	-
4)定性的な効果発現状況	*新町木造雁木が整備されたことによって、健康ウォーキングイベントにて新町も新たにコースに組み込まれ、街中により多くの人が訪れる機会となった。 *交通量調査時の状況から、日常の移動空間としてだけでなく夜間のウォーキングなどにも利用されている。											
5)実施過程の評価	実施内容				実施状況				今後の対応方針等			
	モニタリング	-			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				-			
	住民参加プロセス	①令和4年のまちづくりワークショップ「かもMIRAIカフェ2022」による、本計画区域内を含むまちなかの活用についての検討 ②次期計画に向けた幸町公園の整備方針に関する住民意見の聴取			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				①については、次期計画の立案において、他主体によるまちなか活性化等の検討経過などを可能な範囲で反映する。 ②については、次期計画の幸町公園整備に反映させる。			
持続的なまちづくり体制の構築	①令和6年3月13日「加茂駅周辺まちなかエリアプラットフォーム」の設立			都市再生整備計画に記載し、実施できた 都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した 都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった				● まちなかエリアの方向性など情報共有を図る。				

様式2-2 地区の概要

加茂市街地地区(新潟県加茂市) 都市再生整備計画事業の成果概要									
まちづくりの目標		目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
北越の小京都の風情を持った魅力あるまちづくりを目指す。 目標1:小京都らしい風情の創出 目標2:山-市街地-役所周辺を結ぶ回遊性の創出 目標3:イベント等の受け入れの収容力の確保 目標4:災害に強いまちづくり		新町木造雁木 歩行者数	人/日	348	平成30年	450	令和6年	367	令和6年
		新町多目的広場イベント参加者数	人/回	0	平成30年	250	令和6年	256	令和6年
		避難困難者数	人	390	平成27年	0	令和6年	370	令和6年
		健康ウォーク参加者数	人/回	302	令和2年	500	令和6年	253	令和3年
周辺図  人口:2.4万人 (令和7年2月時点)						 新町木造雁木整備事業イメージ(整備済み区間)			
まちの課題の変化 事業前の課題として、 ①加茂古道や市街地の日常的な来訪、利用の増加、②市街地地区と市役所周辺との連携、居心地が良く歩きたくなるための回遊拠点の創出、③大勢の来訪者を受け入れる収容力の強化、④避難困難地域における安全性の確保が課題として挙げられていた。このうち、①～③については、新町雁木や新町多目的広場の整備により解消に向かっていく。一方で、④については神明町多目的広場の整備を次期計画へ繰り越したため課題解消には至らなかった。									
今後のまちづくりの方策 (改善策を含む) (改善策) ①まちなかのさらなる回遊性向上:市街地とその周辺部となる加茂古道の回遊性を高めるとともに、まちなか回遊の促進を図る。 ②回遊拠点の活用検討:回遊拠点の一つとして整備した仮称加茂市地域交流センターの活用を促進するための運営や施設整備について検討する。 ③避難困難地域の解消:震災時に最寄り一時避難できる施設がない地域を解消する。									